

実験の目的

- 島式ホームをバス利用者に体験してもらい、島式ホームが安全・快適に乗降できる施設であるかどうかを確認すること。
- 島式ホーム設置時に、交通が円滑に運用されていることを確認すること。

実験中のバス運用（未定）

- 【上り方面】：新潟駅万代広場を最終とする路線（萬代橋ライン含む）が島式ホームで乗降
- 【下り方面】：BRT 路線と、同街区にバス停が存在する西小針線、有明線、信濃町線が島式ホームで乗降

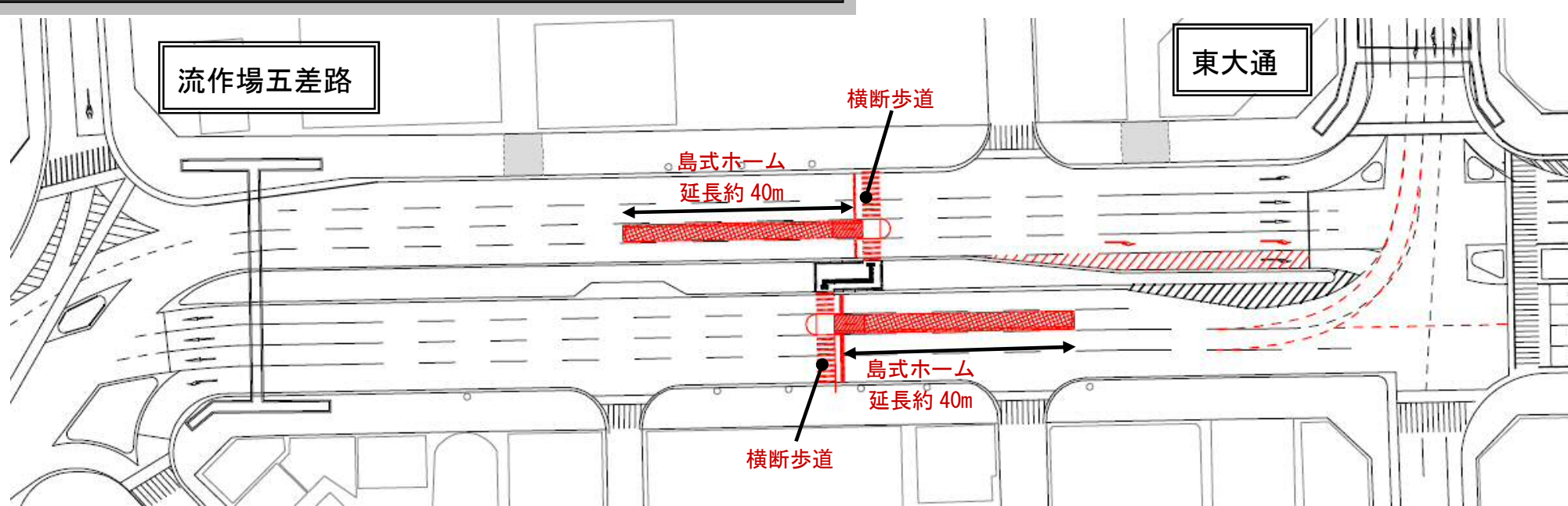
実験実施時期等（案）

- 実施時期：平成 28 年 11 月 5 日（土）～13 日（日）
- 期間：9 日間程度（通勤・通学時のバス利用者、及び買い物等の私用目的利用を考慮して土日を 2 回含む）要
- 時間：バス運行の始発～最終

実験の検証（案）

- 島式ホーム利用者へのアンケート調査（利用属性、利用状況、安全性など）
- 交通事業者に対するアンケート調査（運行状況、定時性、安全性など）
- 交通実態調査（東大通交差点方向別交通量、渋滞長、カメラ撮影による交通の状況把握）

実験実施形態（この形態に加え、各種安全対策を現場で実施）



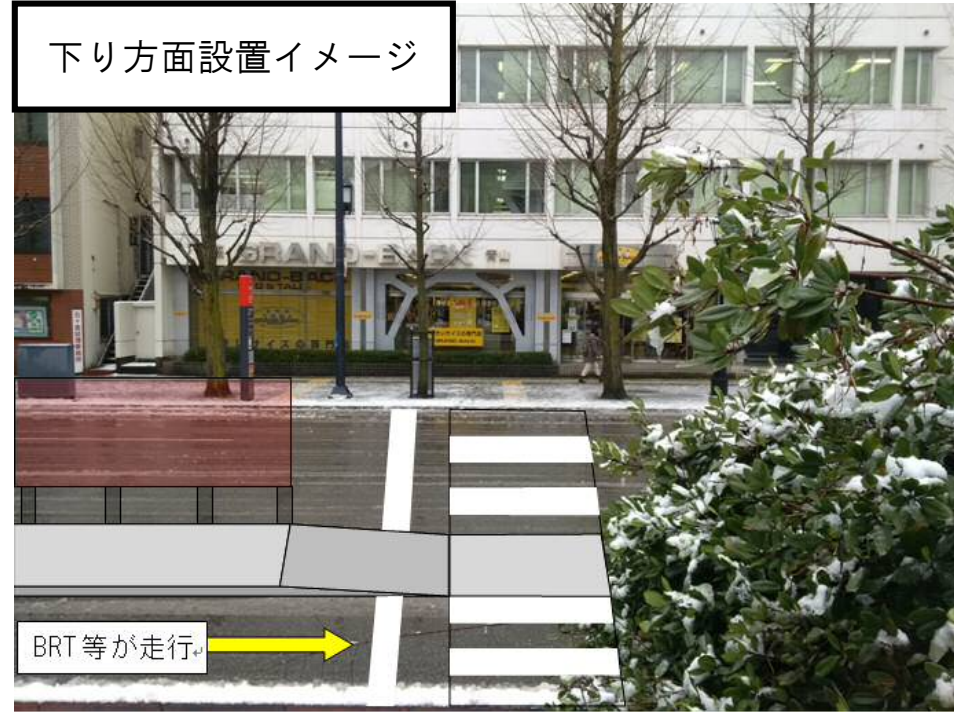
- 横断歩道の設置
 - ・ 島式ホームへのアクセスと、道路の横断が可能となる。

- 信号の設置
 - ・ 車両を新設横断歩道手前で停車させるための車両信号の設置。
 - ・ 横断歩道により道路を横断するため歩行者用信号の設置。

- 中央分離帯の横断者滞留スペース化
 - 植栽等に極力干渉せずに、滞留スペースの創出。

- 安全確保策
 - 【誘導員の配置】
 - ・ 横断歩道の誤横断を防止
 - ・ 島式ホーム上のバス利用客を整流化
 - ・ 自家用車を島式ホーム外の車線への誘導
- 実験実施の周知
 - ・ 横断歩道橋への横断幕の設置
 - ・ 立て看板の設置
 - 島式ホームの存在の周知と、左側車線への通行の協力依頼

- バス運用時間外の当該区間の運用
 - ・ 車両信号の点滅、横断信号の滅灯
 - ・ 横断歩道の運用停止（バリケード設置）



※今後の協議によって変更になる場合がある。

6. 駅前通りにおける島式ホーム設置に係る社会実験案

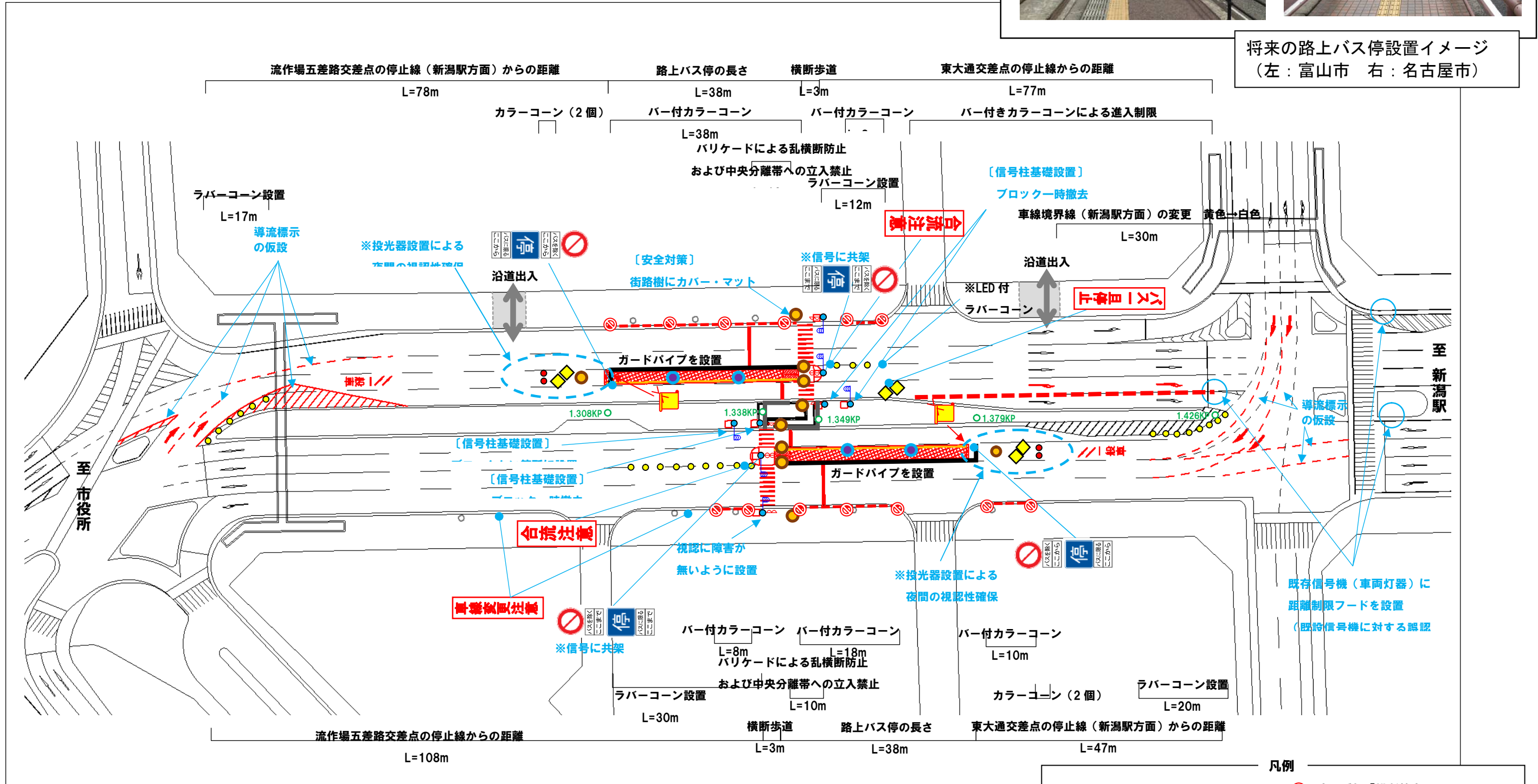
～ 持続可能な公共交通体系の構築に向けて ～

- 社会実験実施時は上屋を設置しない ⇒ 将来的には設置。
- 連節バスは、利用者が混乱することが無いよう、現在の快速運行と同様駅前通りに連節バスは停車しない。
- 一般車両が運用で混乱・渋滞することが無いよう、様々な媒体により可能な限り周知を行う。

[バス運行時における社会実験実施現場]



将来の路上バス停設置イメージ
(左：富山市 右：名古屋市)



凡例

—	バリケード	⊘	立看板「横断禁止」
- - -	バー付きカラーコーン	●	誘導員 (乱横断防止対策ほか)
◆	クッションドラム	●	誘導員 (バス利用者の乗降補助)
Ⓜ	車両灯器	Ⓜ	案内標識「車道に下りないでください」
Ⓜ	歩行者灯器	●	ラバーコーン
Ⓜ	委任信号 (置基礎・鋼管柱)	●	カラーコーン

※今後の関係者との協議により、内容が変更になる場合があります。
 ※各種寸法については現地状況により変更になる場合があります。